

船の句など

— 東門居士句ありこれ

乙卯 乙未

文壇句会の模様は、はじめ文藝春秋に、続いて別冊文藝春秋に、その後ハルル読物に表されていったように記憶する。その昭和二十六年ころから三十一二年までの諸家の句を、あ

ちこちの図書館やら古本屋やらをめぐって調べ歩いたことがあった。二十数年前のことである。東門居士永井先生の、船下りくるら— 葦の毎月かな

という佳句を記憶して、ときは愛読するようになったのは、この文壇句会の記録からであつたように思つて、とぎのいたが、これは私の記憶がいであることを、後に「文壇句会今昔」と題して知つた。同じ乙卯の句で、東門居士の「あまのつさへ湖の香さふ毎月か